

応用物理学会主催

応用物理学会教育シンポジウム

「科学技術創造立国の中での応用物理教育」  
-新たな応用物理教育を求めて-

科学技術基本法の制定ならびに科学技術基本計画の閣議決定により、わが国は今後の国造りの基本を科学技術におくことを標榜しましたが、科学技術創造立国の基盤はもの作りにあります。しかしながら、もの作りを根底において支えてきた物理・応用物理の領域には現在、青少年の理科離れをはじめとさまざまな問題が山積しています。理科教育・物理教育をめぐる重大な時期に、応用物理学会会員を中心としてひろく英知を集め、21世紀を担う創造性豊かな人材育成の方策を探り、また社会は本会ならびに関係諸学会にかかわるひとたちになにを求めているのか等々、こうした問題点を胸襟を開いて指摘し合い本音で討論をするべく、下記のようなプログラムで応用物理学会主催の特別シンポジウムを企画しました。直接教育に携わっている方々のみではなく、企業の方々にもひろくご参加いただき、会員の半数以上が企業に所属しておられるという応用物理学会の特色を存分に発揮し、応用物理学会ならではのシンポジウムとして成功させたいと願っています。関係各位の積極的なご参加を期待いたします。

日時：1998年9月5日(土)～6日(日)

会場：東海大学山中湖セミナーハウス(山梨県南都留郡山中湖村山中323-1 : 0555-62-4100)

(JR 御殿場駅下車。富士急バスにて山中湖村役場前下車、徒歩 15分)

プログラム

9/5 13:00 あいさつ

13:10-13:40 基調講演「科学技術教育の中で応用物理学会が担う役割」  
伊藤良一(東大)

13:40-14:10 「応用物理系の学科が大学から消えている」  
- 物理・応用物理、斜陽の時代の到来か - 川久保達之(桐蔭横浜大)

14:10-14:40 「応用物理はもういらないか？」  
- 産業構造変革に伴う『もの作り』から情報産業への転換 -  
東 実(東芝)

14:40-15:10 討論「応用物理学をとりまく環境の問題点を明らかにする」  
伊藤良一(東大)、川久保達之(桐蔭横浜大)、東 実(東芝)

15:25-16:10 「科学技術立国日本の科学技術リテラシー」  
- 青少年だけではない理科離れ - 風間重雄(中央大)

16:10-16:50 「子供たちはこんなに理科が好き」  
- ある公立中学校の教育現場から - 中 一夫(昭島市立昭和中)

16:50-17:50 「高校理科教育の可能性と生徒の創造性育成」  
- 自由学園での理科教育 - 高田 貴(自由学園)

-19:00-21:00 懇親会と自由討論会-

9/6 9:30-10:10 「飛び入学と人材育成」  
-千葉大学の教育改革の取り組みについて- 大川澄雄(千葉大)

10:10-10:50 「企業は大学・大学院教育に何を望むか」  
宮尾正信(日立)

10:50-11:30 「科学技術と倫理教育」 小林信一(電通大)  
11:30-13:00 昼食

13:00-14:00 「これからの応用物理教育」 - 夢を語る -  
佐藤勝昭(農工大)

14:00-15:30 パネルディスカッション  
- 応用物理学会のこれからと「教育」 -

16:30 閉会

\*講演題目の中には、仮題のものも含まれております。

参加定員：90名

参加費：13,000円(シンポジウム参加費、  
宿泊・食事費、懇親会費、テキスト代  
を含む)

参加締切：1998年8月10日(月)

参加申込み先：応用物理学会応用物理教育  
分科会担当 : 03-3238-1043

Fax:03-3221-6245

e-mail:jsapdiv@mb.infoweb.ne.jp

\*申し込み方法に付いての詳細は、  
応用物理誌7月号に掲載予定。

問合せ先：〒814-0180 福岡市城南区七隈

8-19-1 福岡大学理学部応用物理学科  
平松 信康

: 092-871-6631 ex6174

fax:092-865-6030

e-mail:hiramats@ssat.fukuoka-u.ac.jp

詳しい案内が下記インターネットURLで  
公開されております。

<http://ped.sp.u-tokai.ac.jp/dape/s2.html>